

東京で学ぶ 京大の知

シリーズ4
女性として、
研究リーダーとして

今回は、研究プロジェクトのリーダーとしてグローバルに活躍する京大女性教員によるシリーズです。幼少期から高校・大学時代、そして現在に至るまでの経験がどのように研究につながったか。男性多数派の環境のなかで、どのように様々な研究者を束ね、リーダーとして研究を推進させていったか。京大の学風を活かしながら得た自由な発想とは何か。古都京都の伝統と国際性をいかに研究に取り入れていったか。文系・理系の4人の教員がそれぞれの生い立ちと研究内容を交えて楽しくわかりやすくお話しします。女子高生、女子大生のみなさんの積極的な参加をお待ちしています。



[第1回]
2011年7月26日[火] 午後4時~5時30分
「人はなぜ人間を分類するのか」
人文科学研究所 教授(移民・少数民族研究)
竹沢 泰子



[第2回]
2011年7月30日[土] 午後4時~5時30分
「『わたし』から始まる社会学」
文学研究科 教授(ジェンダー・家族研究)
落合 恵美子



[第3回]
2011年8月2日[火] 午後4時~5時30分
「免疫学の面白さ」
生命科学研究科 教授(免疫学)
女性研究者支援センター長
稲葉 カヨ



[第4回]
2011年8月6日[土] 午後4時~5時30分
「植物の生き方に魅せられて」
理学研究科 教授(細胞学)
西村 いくこ

開催場所 京都大学 東京オフィス

[申込方法] 全4回のシリーズですが、1回のみ申し込みいただくことも可能です。
参加ご希望の方は、東京オフィスホームページから申込用紙をダウンロードし、
ファックスまたはメールでお申し込み下さい。各回定員100名とし、申し込み締め切りは
7月12日(火)となります。なお、定員を超えるお申し込みをいただいた場合は、抽選とさせていただきます。
[申し込み・問い合わせ先] 京都大学 東京オフィス 東京都港区港南2-15-1 品川インターシティA棟27階
[電話] 03-5479-2220 [FAX] 03-5479-2221
[メール] t-office@www.adm.kyoto-u.ac.jp [URL] http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/tokyo-office/
[主催] 京都大学 [後援] 朝日新聞社

東京で学ぶ 京大の知

シリーズ4
女性として、
研究リーダーとして

[第1回] 2011年7月26日[火] 午後4時～5時30分

竹沢 泰子 「人はなぜ人間を分類するのか」

女は習い事、地元の大学へ、という封建的な家庭で育ちました。でもなりゆきで、女子校から遠方の大学、大学院、そして留学へ。大学では文化人類学を勉強。留学先で戦時中強制収容された日系人にインタビューして、人種差別や人間の分類について考えるようになりました。今は、欧米中心の理論に対し、日本から新しい視点を発信できないか模索中です。

[第2回] 2011年7月30日[土] 午後4時～5時30分

落合 恵美子 「『わたし』から始まる社会学」

出産の歴史について修士論文を書いていたら、妊娠した。近所のお母さんたちとワイワイ子育てしながら、育児を支える社会的ネットワークについての調査をしたのが、その後の研究の方向性を決めた。さりげない日常の中にある論理を見つけて、社会のしくみやグローバル化する世界へと、全面展開していくのがわたしの社会学のスタイルです。

[第3回] 2011年8月2日[火] 午後4時～5時30分

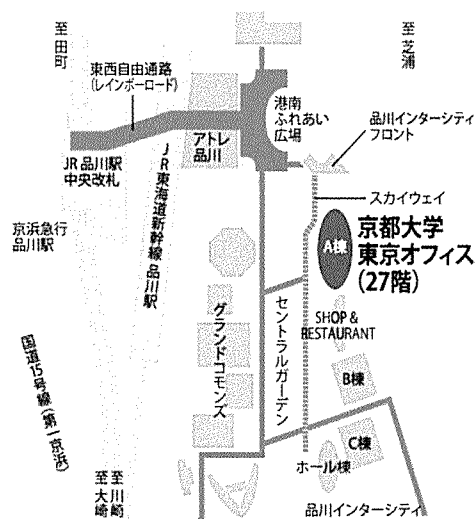
稲葉 カヨ 「免疫学の面白さ」

田畑のあぜ道や小川での遊びも小学校で卒業し、地元の中学から高校へ。そして女子大を経て京都に移り、以来免疫の研究を初めてうん十年。留学を通して国際的に研究上や個人的な繋がりも広がり、国内外の学会等の運営にも携わってきました。しかし、ふと気づくと今や男女共同参画との2足の草鞋。大変です。

[第4回] 2011年8月6日[土] 午後4時～5時30分

西村 いくこ 「植物の生き方に魅せられて」

小学校では理科実験部で電気ヒーターを作って教室の安全フェーズをとばしたり失敗経験は豊富。子連れ留学では周囲の方々に助けられて感動。高校では明快な数学に魅せられていましたが、大学では曖昧な生物の面白さにとりつかれました。今は、環境ストレスに身を任せながら生きる植物のしなやかさの虜になっています。



[会場]

東京都港区港南2-15-1 品川インターシティ A棟27階
品川駅・東西自由通路（レインボーロード）からは品川インターシティ A棟の2階に入ります。エスカレーターで3階までお上がりの上、エレベーターにて27階にお越しくください。なお、土曜日には、エレベーターは1階に止まりません。